

第 23 回福島問題研究会議事録

松井

1.日時 3月30日(木) 14:30-17:00

2.場所 化学工学会 会議室

3.出席者 横堀、小林、郷、橋本、中尾、鈴木、松井 (順不同)

4.議事内容

(1) 前回議事録の確認

特に意見なし。

(2)3/7の化学工学会年会シンポジウムは良かった。小林顧問紹介

福島原発事故対策委員会は今後研究会として継続する予定で、その決定は理事会マターとなる。日揮の竹内顧問から化学工学が原発事故対策に参加するのは意味あることでNDFとの打ち合わせをアレンジしたいとのコメントがあった。

(3)(公財)神奈川科学技術アカデミーの開催セミナー 『『廃炉』から始めよう新たな一歩』

橋本氏紹介

- ・福島第一原子力発電の廃炉に必要な技術とは? IRID 開発計画部長 桑原浩久氏

- ① 1Fの事故炉内について分かってきたこと、②廃炉ロードマップ、③IRIDの事業内容、④デブリの現状推定、取り出しに必要な技術開発について、⑤廃炉に使えるロボットの開発と現状について

- ・廃炉に向けた東芝の取り組み 原子力技師長 四柳端氏

- ① 事故直後から現在に至るまでの東芝の関わった事業のレビュー、②汚染水処理技術の開発と現状(今まではALPSと称していた多核種除去設備は、最近ではMRRS(Multi Radioactive nuclide Removal System)と名前が変わった。東芝としては今も総力を挙げて対応している。

- ・作業者の安全対策高度化に関する取り組み 千代田テクノル 特別参与 川村弘氏

- ① 廃炉作業に関わる作業者の安全対策高度化システムの開発に注力している。②パワード放射線遮断スーツの機能化、③遮蔽スーツで隔離された作業者の意思疎通を図るための耳周辺デバイスシステムの開発、特殊イヤホンマイクを使った作業者健康管理システムの開発、④2018年度末までには一応の技術開発を終えたい。

- ・廃炉のプロセスを未来に活かすために 福井大学原子力工学研究所 柳原敏氏

- ① 廃炉は巨大プロジェクトであり、Managerial levels Technical levels との連携が重要。②現場の実情を反映した技術開発が重要。③エンジニアリングのみでは問題解決できない。政府レベルから作業現場に至るあらゆる階層をカバーした議論と協力が必要(米DOE発行の書類にあるコメント)

(4)NDF 研究連携タスクフォースの中、腐食現象の解明を目的に分科会を立ち上げ4月～5月に第1回会合がもたれる。鈴木氏紹介

(5)今後の研究会の進め方

- ・7月見学会を計画してはどうだろうか。檜葉の施設、1Fを再度訪問など今後検討。
 - ・現場の生の声を聞く目的で東電廃炉カンパニーの人と話をする場を作ることも検討してはどうか。(橋本氏の方で適当な窓口を探る。)
 - ・学会を動かしてしかるべき人に働きかける。
- (早大の松方先生に学生での吸着剤探索実験の可能性について当たってみる)

(6)次回開催日

5/12 午後予定

以上